

YMfg

2026 VOL.13

from
北 山
九 島
州 県

LOCAL
ISSUE

この世界で。この街で。このじぶん。

働くことと生きること

(*working*)

室積だから叶う“自分らしさ” | クリーむパン(八天堂)の新たな挑戦
われら社会人レスラー! | いま、クリエイター集団が気になる!



じぶんの人生から 出ていこう。

宇宙に果てがあるのか ないのか
知らない けれど。

いま ここから、
どれだけ 遠くへ 行けるのか、
ただそれを 試したい。

人生が冒険 ならば。
人生が 一度しかない ならば。
心は、感情は、精神は、
同じ地点に 居続けられる だろうか。

動けば、必ず 動き出す。
はじめれば、必ず はじまる。
仕事 という名の この冒険の
あしたを あさってを、
僕らは 幸運にもまだ 全く知らない。
仕事は、 じぶんを 閉じ込めない。
むしろ 逆でしょう。 逆。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

山口銀行 もみじ銀行 北九州銀行

YMfg

YMFGが思い描く「地域の豊かな未来」を共有するために、この街に存在する、あしたを託したい、あしたを照らしてほしい人や取り組みを紹介します。

しなやかな働き方、
三都で見つけました

【山口県】

PO6

室積だから叶う“自分らしさ”

生きるって自由でよくない？

【広島県】

P12

くりーむパン〈八天堂〉の新たな挑戦

農福連携で地域を変える

【北九州】

P18

われら社会人レスラー！

北九州で働き、愛し、熱くする

いま、クリエイター集団が気になる！

- P11 山口県 | 山下工業所
- P17 広島県 | 歴清社
- P23 北九州 | 北九州文化会館

P24 YMfgのあした考 第8回
[しなやかなジョブチェンジがもたらすもの]

連載

- P26 あしたのランチ何食べる？
[福岡県] 三陽食堂／[広島県] スープとおにぎり クランク／
[山口県] お家カフェ ぽかぽか
- P27 わたしを変えた住空間
- P28 三都の雑貨物語
- P29 ラブレター from 東京
- P30 YMfg あした新聞



COVER

PHOTO_ 西山 勲

大田理姿 (おおた・りさ)

1993年、山口県出身。ジャパンカップやアジアカップでの優勝や、世界ランキング8位となるなど、リード競技をメインとするスポーツクライマー。世界中の大会に出場する傍ら、地元山口のテレビ番組への出演や講師としても活動している。



近年、ボルダリング熱が高まる中国で教える様子。

興味の赴くままに生きる、
何事にも代えがたい喜び

自分がしたいことができる環境を大切にしたいという思いから、フリーランスとなりました。今は大会前に仕事が入ってしまったり、仕事と遊びをコントロールできなかったりすることもなくなり、すごくいいバランスだと思います。東京オリンピックが開催される前までは、「壁を登るのって何が楽しいの？」という風潮がありました。以前からボルダリングの楽しさを伝える仕事に興味があったので、最近は次世代の育成にも携わることができるようになりました。世界各國を回った経験子どもたちにどう伝えていくか、日々考えることが楽しいですね。(大田さん)

山口県だからできる「いい暮らし」とは？
公式Instagram限定記事もお楽しみに。



ひと昔前は憧れに過ぎなかった働き方が、今や社会のスタンダードに。常識の輪郭がほどけ、“こうあるべき”は“どうにでもあるべき”へと移り変わっていくのかもしれない。もっと自由に、もっと豊かに。自分らしく働き、美しく生き抜くために、私たちはどんな羅針盤を持っておけばいいのでしょうか。今回の特集では、しなやかな時代の風を纏う人や企業の物語から、新しい価値観のヒントを拾い集めます。

(working)



郁美さんの曾祖父母が製パン業を営んでいた店舗兼自宅の古民家を改修。地元作家などの雑貨や、唐揚げなどのテイクアウト惣菜が並ぶ。お昼時は近所のご婦人、夕方には下校途中の子どもたちが集まり、温かな憩いの場に。〈木村家〉(山口県光市室積7-9-3)



素朴で満ち足りた 室積の魅力を発信

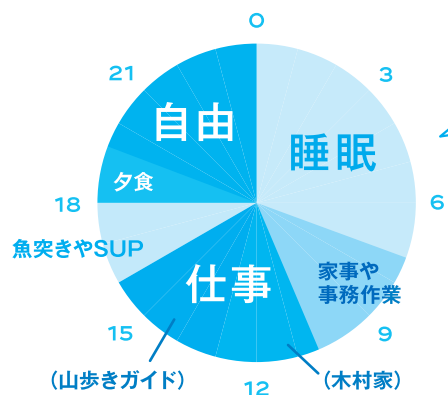
〈むろ計画〉代表
山本統さん

山口県上関町出身。大学在学中に渡豪。帰国後、旅行会社勤務を経て〈徳山コーヒーボーイ〉入社、副社長に就任。2020年に〈木村家〉をオープン。2024年に〈徳山コーヒーボーイ〉を退職後、〈むろ計画〉設立。

のびのびと働ける新たな環境は、「ノルマや上下関係に耐えるのが会社員」という固定観念から解放してくれた。同時に、室積に広がる静かな時間と美しい海が、故郷・上関町での記憶を呼び起こし、心地よい豊かさを与えてくれた。入社7年目で副社長に就任。一方で、副業として家族で切り盛りする〈木村家〉をオープンした。店の経営を通して地域のひととの絆が深まり、室積への想いは強くなるばかり。自分にとって一番大切なことは何か。突き詰めていくと、「自由」と、家族というシンプルな答えが残った。

新たなステージに進むため、〈徳山コーヒーボーイ〉を退社。今は〈木村家〉でコーヒーを淹れながら、街の魅力を守り広げる〈むろ計画〉の活動をしている。〈むろ計画〉は株式会社でも合同会社でもなく、出資と労働を持ち寄って自ら働く場をつくる企業組合。メンバーはみな対等なため、上下関係や派閥によるしがらみが生まれない。ここには自由を重視する山本さんの想いが強く表れている。1日の仕事のスケジュールはまちまちで、合間に家族と遊んだり、SUPボードを抱えてサックと海に出かけることもある。やりたいことをやって、家族との時間も大切にしたい。とすれば甘えに聞こえる欲求も、山本さんが語るとすんなり胸に届く。人はもっとシンプルでいい。彼の生き方がそれを証明している。

四方をほぼ海に囲まれた山口県上関町で育った山本さんは、10歳で光市に移り住み、大分県の大学へと進学。旅が好きで、海外のカフェ文化に触れるうちにコーヒーも好きになった。大手旅行代理店に就職し、営業職として山口県内の支店に勤務。刹那的に過ぎる多忙な日々を、当たり前と言いつつもやり過ごした。しかし東日本大震災をきっかけに、人生は一度きりと痛感。自身のコーヒー店を構える決意をする。妻・郁美さんの実家がある室積に住まいを移し、知人が手がける地域活動の手伝いをしながら開店準備を進めていたところ、諸事情により計画は白紙に。そこに手を差し伸べてくれたのが、先述の地域活動で知り合った〈徳山コーヒーボーイ〉社長の河内山嘉浩さんだった。



山本さんの
ある1日

生きるって、もっと自由でよくない？

室積だから叶う “自分らしさ”



山口県室積は、瀬戸内海に面した穏やかな港町。江戸時代には大阪と北海道を結ぶ商船・北前船の寄港地として栄え、当時の面影を残す町家が立ち並ぶ。そんな室積の魅力を伝えようと、山本統さんは企業組合〈むろつみ空想計画舎(むろ計画)〉を立ち上げた。街じゅうを奔走する姿は驚くほど軽やかで、「地方創生」や「観光推進」といった大仰な表現は似合わない。山本さんが選び取った自由な働き方、そして、等身大の幸せとは。

PHOTO_ 勝村祐紀 TEXT_ 片桐絵都
ILLUSTRATION_ 小池佑子 EDIT_ 後藤麻与

働くことと生きること「山口県」

いま、クリエイター集団が気になる！

CREATIVE COLLECTIVE

山下工業所 from 山口県



©Taiki Fukao

三都のものづくりを支えるのは、磨き抜かれた“集団力”。才能が響き合う現場には、クリエイティブな火花が炸裂していました。



EXPO2025
BLUE OCEAN DOME
〈山下工業所〉
山口県下松市東豊井122-5
Instagram : @yamashita_factory

金属を3次元に曲げる!? 若き匠たちの手仕事

新幹線の「顔」が手作業でつくられていることをご存知だろうか。山口県下松市にある〈山下工業所〉は、金属板をハンマーで叩いて流線形の立体に仕上げる「打ち出し板金」の匠。その卓越した技術を武器に、日立グループの協力工場として新幹線の先頭車両を60年以上にわたり製作してきた。工場内に響くリズムカナルな音は、板金成形機「クラフトフォーマー」によるもの。機械といえども人の手の繊細な感覚が頼りとなるため、習得に3年はかかると思われる。導入企業が少なく、同社では12台が稼働。同一事業所内の保有台数としては国内一を誇る。それだけ職人の質が高いということだ。現在、創業メンバ

ーは引退し、想いを受け継いだ若手を中心となって活躍している。機械系学部を出て入社する人もいれば、宮大工や介護職からの転身など、社員のバックグラウンドはさまざま。それでも全員に共通しているのは「誰にも負けないものを持っている」というプライドだ。下積みは長い、ひとたび技術が身につけば、あとはひたすら自分のものづくりを追求できる。「職人にとっては天国ですよ」と、弱冠30歳の工場長・稗田芳樹さんは笑う。最近では新たな分野にも進出しており、大阪・関西万博のパビリオン〈BLUE OCEAN DOME〉の水が流れるオブジェや、ラグジュアリーブランドの店舗内装も手がけている。ひたむきなプライドと唯一無二の技術を携え、未来という名の金属板に美しい流線を描いていく。若き職人集団の挑戦から今後も目が離せない。

PHOTO_勝村祐紀(一部、山下工業所提供)
TEXT_片桐絵都 EDIT_後藤麻与



街のピンチに立ち上がった仲間たち
〈室積市場ん〉女性8人グループ
Instagram : @murozumi_1ban

室積は女性がかがやく街



日常にちよっぴり豊かさをくれる
〈モロー雑貨店〉あゆみさんと〈イト商店〉満代さん
Instagram : @morro4388 / @itoto_shoten



みんなを照らす、この笑顔
〈木村家〉郁美さん
Instagram : @hitosaji1936

案内人物私の

室積の女性は本当に元気だなと思います。もともと住んでいる方はもちろん、移り住んでこられた方もそうなので、何か元気になる理由が街の中にあるのかもしれませんが。〈室積市場ん〉は、2020年に8人の女性が力を合わせて立ち上げたマルシェです。この動きがきっかけとなり、活気を失っていた海商通りにどんどんお店が増えていきました。彼女たちは街づくりの立役者です。古民家利活用の取り組みもされていて、〈むろ計舎〉でもお手伝いをしています。

元気だけでなく、洗練されているのも室積の女性の特徴かもしれません。〈モロー雑貨店〉のあゆみさんは大阪から室積に移住した布作家。フランス製のジャガード生地を使った小物をつくられていて、すごくオシャレ。僕もこの間、奥さんの誕生日プレゼントにポーチを買いました。〈イト商店〉の満代さんも移住者で、もともとは柳井市のご出身。陶器やガラス、今治タオルやアクセサリーなど、キラリと個性の光る日用品を扱っています。2人のお店は今年オープンしたばかり。目と鼻の先にあるのでハシゴをおススメします。

そして元気な女性といえればやっぱり僕の奥さんです。息子たちと遊ぶ時は全力投球ですし、いつも笑顔で〈木村家〉を照らしてくれます。さらに、うちのお店の惣菜は義母や義叔母がつくっていて、彼女たちもとってもパワフルです。いきいきと働く室積の女性たちに、ぜひ一度会いに来てください。



むろつみ空想計画舎
Instagram : @gabisyoku

農業×福祉
農福連携を知っていますか？

くりーむパン 〈八天堂〉の 新たな挑戦

農業と福祉が連携し、さまざまな課題の解決を目指す「農福連携」。そこに「商工」を融合させ、「商工農福連携」を掲げて設立されたのが三原市の〈八天堂ファーム〉。働きたい人が働ける環境を、ビジネスを通してつくる。その実現に向けて歩む〈八天堂ファーム〉のぶどう園を訪れた。

PHOTO_ 鯨崎浩太郎 (一部、八天堂ファーム提供) TEXT_ 住田茜 EDIT_ 福津くるみ

地域を変える 「農福連携」とは？

高齢化などを背景として人手不足に悩む農業者と、高齢者や障がい者の就労場所を探す福祉事業所をマッチングさせる取り組みのこと。農業と福祉が連携することで、各領域が抱える課題の解決を目指すほか新たな可能性も見出せることから、近年この考え方が広がっている。八天堂ファームでは、その「農福連携」に2次産業・3次産業を組み合わせた「商工農福連携」を提唱し、地域や社会の課題と向き合いながら、新たな価値を生み出す取り組みを行っている。

多様な人が交わり、 働くよろこびが実るぶどう園



ぶどう園の管理を行う弓場さん。



毎年8月後半～10月初旬が収穫の最盛期。



粒が大きく、食べ応えのあるピオーネ。



誰もが安心して働ける環境づくり 働きたい人が働ける世界へ

竹原市では1870年代頃からぶどう栽培が始まったといわれており、特に「八天堂ファーム」のぶどう園がある山間部は水はけがよく、気温差があるため栽培に適しているという。合わせて約80アールの広さを有する圃場では、シャインマスカットやピオーネをはじめ10数種類の品種を露地栽培。圃場の管理を任されているのは、ぶどう栽培の研究に携わって30年のキャリアを持つ弓場弘さん。オーナー不在となり放棄されていたこのぶどう園を再生し、栽培の安定と収穫の向上に努めてきた。弓場さんともこのぶどう栽培に携わっているのは、以前からぶどう園の手伝いをしてきた近隣住

民、そして「八天堂ファーム」とともに「商工農福連携」に取り組む「宗越福祉会」の支援員とその対象者だ。弓場さんと支援員が細部まで確認しながら、対象者一人ひとりに合わせた作業を任せている。その内容は水を撒かん水、余分な果粒を取り除く摘粒、房への袋かけ、収穫、選果など、栽培から収穫後に至るまでさまざまな。老若男女を問わず、それぞれの得意なことや得意な分野を生かしながら、ぶどうの成長と収穫の喜びを楽しみに作業にあたる日々。圃場で働くみなでコミュニケーションを取り合うことを大切に、誰もが安心して働ける環境づくりに取り組んでいる。

商工農福連携 (ノフクマーケティング)

〈八天堂ファーム〉にて「農福連携」で農産物を育て、グループ会社〈八天堂〉が持つ技術を生かしてその農産物を使った商品を開発・製造し、流通・販売する。



八天堂ファーム
HATTENDO FARM

ビジネスモデル

自社内の「商工農福連携」とどまらず、県内外の他の農福連携事業者や製造・加工メーカー、小売業者などともアライアンスを組むことで、高齢者や障がい者のさらなる雇用創出と価値ある商品づくりを実現。

くりーむパンが人気の「八天堂」。そのグループ会社として、「商工農福連携」を掲げて2022年に設立されたのが「八天堂ファーム」。代表取締役の林義之さんは、経営コンサルティング会社を経て「八天堂」へと入社し、広島空港近くの新工場や体験型施設、千葉県木更津市の就労支援型工場の立ち上げ、規格外のフルーツを使った商品開発など多岐にわたる業務を担ってきた。その頃から社内では地域共生をベースにした「農福連携」がテーマとして挙がっており、事業化を目的として県立広島大学大学院経営管理研究科（HBS）へ入学。そこで社会福祉法人「宗越福祉会」理事と出会い、その出会いが事業化を一気に推し進めるきっかけになった。

「自分たちは得意とする加工や販売に注力して、農業や福祉はそれぞれのプロと伴走しながら、商工農福連携という形で地域共生につなげたい」と考えていた林さん。未来をともしに描けるパートナーを得た後には、竹原市のオーナー不在のぶどう園やぶどう栽培の専門家との縁も生まれ、「八天堂ファーム」を設立。地域の中に働きたい人が働ける環境をつくり、そこで育った農作物に物語や加工を組み合わせて付加価値を生み出す「商工農福連携」の実現へ向けて歩み始めた。

農業や福祉のプロと伴走して 「商工農福連携」の実現へ



バターサンドウィッチとくりーむパンは、〈八天堂ビレッジ〉にあるカフェリエで通年で販売中。

〈八天堂ファーム〉が 育てる“美味しさ”

シャインマスカットやピオーネなどを栽培し、ジャムへと加工。ぶどうやジャムを使用してつくる菓子は、オンラインショップや広島空港すぐ近くにある〈八天堂ビレッジ〉、一部スーパーなどで購入することができる。期間限定の商品もあり。



人気の高いシャインマスカットは、例年8～9月頃オンラインショップにて販売。

地域共生のカギはどこにある？ 新しい「繋がり」のつくり方

いま、クリエイター集団が気になる！

CREATIVE COLLECTIVE

三都のものづくりを支えるのは、磨き抜かれた“集団力”。才能が響き合う現場には、クリエイティブな火花が炸裂していました。

歴清社 *from* 広島県



自由な発想とアイデアで 箔押し紙の可能性を広げる

伝統工芸技術である箔押し。金紙や銀紙が一般的だった中、創業者が真鍮製の箔押し紙の開発に着手。紙を変色させない技術と、壁紙サイズの大きさの製作を可能にする技術確立し、箔の可能性を広げたのが1905年創業の〈歴清社〉だ。ただ伝統工芸技術であるがゆえに、その長い歴史の中で技術継承の難しさに直面したことも数知れず。「時代の変化を読み、新たなニーズを見出し、自分たちにしかできない技法や素材に代々挑戦してきました。チャレンジ精神が根付いていると思います」と話すのは、6代目の久永朋幸社長。全国各地のホテルや美術館等で内装、インテリアとして使用する箔押し紙の壁紙に加えて、近年はアパレルとの協業や箔押し紙の端材を使った雑貨の展開、SNSを活用した認知度向上など〈歴清社〉ブランドの構築に努めてきた。その結果BtoCまで裾野が広がり、箔文化をより多くの人へ届けることが可能になった。そこで重要な役割を担うのが、「クリエイター」と呼ばれる製造メンバー。技術を磨くのはもちろん、創造力を働かせて自由な発想でアイデアを出しながらものづくりと向き合う。そこには長らく培ってきたチャレンジ精神が息づいており、多彩なアイデアが日々製品化に向けて動いているという。また、今やその技術や製品は海外からも注目を浴びるように。「100年前から製品には全て“Made in Hiroshima, Japan”と入れています。広島から発信しているというメッセージをこれからも大切にしたい」。広島への思いと誇りを胸に、箔の可能性を拓き続ける。



箔のペーパークラフト（虎・鹿・象）
〈歴清社〉
広島県広島市西区三篠町3-20-4
Instagram: @rekiseisha

PHOTO_〈歴清社〉提供 TEXT_住田茜 EDIT_福津くるみ

地域とともに、次の時代を育てる。

「商工農福連携」という 新しい選択肢

株式会社八天堂ファーム
代表取締役 林 義之さん

広島県出身。大阪の税理士法人で税務申告などの業務に従事した後、地元への愛着からUターンで〈八天堂〉へ入社。2022年、八天堂ホールディングスの子会社として〈八天堂ファーム〉を設立、代表取締役就任。



小さなぶどう園からイノベーションを起こす

ぶどう園の運営を始めて、5年目を迎える今。初年度は9000房袋がけしたうち5000房が鳥獣被害に遭うなど苦戦もしたが、対策と工夫を重ねて4年目にはぶどう園単体での黒字化に成功。「決して環境的に恵まれているわけではない園場でも黒字化できたことに自信を持ってました、他の園場でも可能性はまだあるということにも気づけました」と林さん。「設立当初から、自社では地域商社のような形で加工や販売を後方支援する方が農福連携に携わる意味が大きいと考えています。ですので、このぶどう園は実証の場としてしっかりと運営していきたいながらも、今後は他の農福連携をされている方やこれから取り組もうと考えている方のサポートをしたいと考えています」。

経済性のある活動として駆動させていく

「農福連携」はまだ一般的にはなじみがないものの、地域に暮らす人の社会復帰や自立を支え、雇用を生み、その先には貧困対策や町おこし、そして食の安全保障などにもつながる重要な活動だ。「〈八天堂ファーム〉が農福連携という社会課題の解決を事業ドメインにしているという使命感を持ち、だからこそビジネスとしてしっかりと駆動させていくことが大切だと考えています。その構造をつのモデルとして、同じ課題感を抱える国内各地、そして世界へも広がっていきたいです」。他の農福連携事業者や民間企業、行政などさまざまなパートナーと思いを共有しながら、この小さなぶどう園から国内外へ向けて新たなイノベーションを起こしていく。



それはとある 居酒屋から始まった

「がむしゃらプロレス」は、北九州市小倉北区にある「プロレス居酒屋がむしゃら」で誕生した。よなよな集うプロレス愛好家たちから「草野球があるのだから、草プロレスがあってもいいのでは？」というアイデアが生まれ、練習を開始。2003年に友人知人たちが集まる中、初めての試合を開催。以降どんどんファン層を拡大し、現在では1000人規模の観客を集める人気の団体に！20人あまりの個性豊かなレスラーたちが、年5回の「がむしゃらプロレス」オナーリーの大会に加え、さまざまな団体に招聘され、熱戦を繰り広げている。今でも「プロレス居酒屋がむしゃら」にはファンたちが集い、プロレス談義に花を咲かせている。



お城、商店街、公園… 戦いの舞台は、街そのもの！

「がむしゃらプロレス」は、体育館やホールだけでなく、北九州のさまざまな場所で試合を繰り広げてきた。小倉城天守閣、血倉山、門司港の跳ね橋の隣、勝山公園など北九州を象徴する名所だけでなく、ショッピングモールや神社のお祭り、高齢者施設など、人の集まる場所ならどこへでも。そこにはファンだけでなく、これまでプロレスを知らなかった街の人たちとも出会うチャンスが満ちている。さらに北九州を飛び出し、東日本大震災や熊本地震、九州豪雨災害などの被災地でもチャリティマッチを行ってきた。「試合を見て元気になった」「明日もがんばろうという気持ちになった」と声を掛けられることもしばしば。



お金は大事、 だけどお金だけじゃない！

選手たちはふだん別の仕事をしながら、レスラーとしての足のわらじをはいている。スポンサーからの広告費やチケットの売上から得た収入は、選手たちは受け取らず、今後の試合の会場費や音響費、ポスターの制作費などに使われている。またお祭りなどで披露する試合は、無料で観戦できるものも多い。がむしゃらプロレスの特徴は、初めてプロレスを見る。お客さんが多いこと。せっかく興味の入り口に立ってくれた人を楽しめるために、試合の内容だけでなく演出にもこだわる。大会を続けるためにお金は大事。しかしお金のためだけに戦うのではない。それこそがアマチュアプロレスの醍醐味だ。

北九州で働き、北九州を愛し、 北九州を熱くする!!! われら社会人レスラー！



働くことで生きること「北九州」

がむしゃらプロレスは、2003年の旗揚げ以来、22年にわたって北九州市民に愛されてきた社会人プロレス団体である。メンバーは昼間それぞれに仕事をしながら、日々忙しさの合間を縫っては、夜や休日に集まって練習し、試合で観客を沸かせる。彼らを突き動かすのは何なのか、どのように街と関わり合っているのか。「北九州を愛し、北九州に愛される、おらが街のプロレス」取材した。



PHOTO_大城ひろみ (P20-21) ILLUSTRATION_中島彰 TEXT&EDIT_浅野佳子

／ おしごと拝見！ ／



ダイナマイト九州さん の場合

ダイナマイト九州さんの仕事は、パティシエ。〈Sweets shop Bien Bien Brassier〉のオーナーとして、店を切り盛りしている。一番人気は、ミニタルトだ。近年は原材料や資材価格の高騰が切実な悩み。「プロレスがあるから、仕事にもはりあいが出ます。どちらもライフワークです。どちらが欠けても物足りないでしょうね」。



陽樹さんの場合

陽樹さんは、公共事業などを受注する工務店の代表を務める。社長になって15年ほど。「年度末は大忙しですよ!」と笑う。最近は社員がどうやら向上心を持てるかという難題に考えを巡らせる日々。「働き方改革で、働く環境はよくなりましたが、仕事をする上ではもっと積極的に学んでほしい」と経営者の悩みは尽きない。

ダイナミックな
プロレスは
身体が資本!

仕事は繊細に
プロレスは
大胆に!

スイートな中に
スパイス
効かせろ!

プロレスも経営も
カッコよくて
なんぼ

なぜがむしやらプロレスは、
仕事をしながら
リングに上がり続けるのか?

2つの世界を生きる豊かさ

現在20人あまりの選手を擁する「がむしやらプロレス」。それぞれに家庭や仕事の状況が異なる中、時間をやりくりしながらプロレスを続けるモチベーションは?と問うと、「リングに上がったものにしかわからない高揚感があるから」と全員が口を揃える。鉄生さんは

「やってみないか」とスカウトされるも、断り続ける。2年。がむしやらは当時からずっと

人気で、自分にはできないと思っていたんです。ただいんなことがうまくいかない時期があったときに、人生が面白くなったらいなとやらせてください」と道場の門を叩きました。彼らから感じるのは、仕事以外に自分の大切な世界を持つていることの豊かさだ。陽樹

さんは、ふだんの自分とリング上の自分は全く違う人間だと話す。「こういう自分であらう」「こういう試合をしよう」と、脳内でしっかりイメージをすることが大事。僕はリング上でめちゃくちゃかっこつけるんです。でもそれがいいんです」と自分のスタイルについて語る。トウルエノ・ゲレーロさんも「プロレスのない自分は、やっぱり考えられない。生きた心地がしないっていうか。大変な中にも、観客の視線から受ける高揚感も、いろん

応援しに行き、
応援されるという経験

「プロレスのリング上には、肉体的な痛みも、観客の視線から受ける高揚感も、いろん

な感情が渦巻いています。みなさんの「喜」「憂」に、リング上の選手はすごく刺激を受けています」と話すのは、ダイナマイト九州さん。がむしやらプロレスでは、これまで災害の被災地でチャリティマッチや炊き出しなどを行ってきた。仮設住宅を回って試合を告知するチラシを配布。やってきた観客は、これまでプロレスを見たことがなかった人も多かった。「みなさん、めちゃくちゃ応援してくれんです。応援しに来たのはこちらの方なのに、なぜか僕らが励まされて。あのときは、必死に生きようとしている人たちの気持ちを痛いほど感じました」と鉄生さんは振り返る。「応援する」というのは、決して一方通行の行為ではない。きつと観客自身も、応援することで元気を得ているに違いない。

リングネーム
トウルエノ・ゲレーロ

仕事
スポーツジム
トレーナー

リングネーム
鉄生

仕事
事務職

リングネーム
ダイナマイト九州

仕事
パティシエ
〈Sweets shop
Bien Bien Brassier〉
オーナー

リングネーム
陽樹

仕事
〈古村工務店〉
社長

いま、クリエイター集団が気になる！

CREATIVE COLLECTIVE

三都のものづくりを支えるのは、磨き抜かれた“集団力”。才能が響き合う現場には、クリエイティブな火花が炸裂していました。

北九州文化会館 from 北九州



左から池部遥子さん、AKIRAさん、
城下健悟さん、池部哉太さん。

〈北九州文化会館〉
福岡県北九州市小倉北区中島1-3-5
Instagram : @kitakyu_bunkakaikan

PHOTO_大城ひろみ TEXT & EDIT_浅野佳子



街はもっと面白くできる 私たちの“複合的文化施設”

築60年の古いビル。古着屋を営む池部哉太さん、遥子さんがここに入居したことから、全ては始まった。「いろんな人が集まる場にしたい」という気持ちに吸い寄せられるように、いつしかメンバーが集まってきた。友達だったグラフィックデザイナーの城下健悟さんが、独立のタイミングで入居。映像作家のAKIRAさんは、古着屋の客として来店して池部さんと意気投合し、「モノを捨てない循環生活にチャレンジしよう」と1Fにリサイクルショップをオープン。大学で哲学を研究する高木駿さんも加わり、このビルで緩やかにつながった。ここは単なるショップが集まる雑居ビルではなく、それぞれに得意なことを持ち寄り実験する場になっていて、例えば都市型の屋上コミュニティガーデンで野菜を育てたり、哲学対話をやったり。「やっていることや目指すことを表現できる名前があればいいね」とつけられたのが、「北九州文化会館」という名前だ。「服も文化、音楽も文化、食も文化。文化ってつけたら何でもできるんじゃない？」とメンバーは笑う。2025年11月には、「文化会館の名前に負けないイベントをやろう!」と小倉の店舗やギャラリー9店舗を舞台に、総勢80組を超えるアーティストとともに「小倉周遊音楽祭 遊遊 You-You」を実現させた。彼らはあくまでコアメンバーで、周りに街の人がたくさんいるのがよくわかる。人々の熱が、令和のネオ文化会館に集まってきている。といっても、肩肘張らない出入り自由な雰囲気が心地よい場なので、まずはふらりと立ち寄ってみることをおすすめする。



なぜ北九州市民は、
がむしやらプロレスを
愛するのか？

／ がむプロファンの声 ／

試合のアイデアが豊富で、
本当に私たちを楽しませてくれます。

みんな仕事を持っているのに
真摯にがんばっていて、元気をもらえる！

試合で声を思いっきり出すのが、
日々のストレス発散！

地元の団体なので、選手と会えるのが嬉しい。
会に行けるプロレスラー、最高！

プロとなんなら遜色ない試合は、
一見の価値あります。

子どもは保育園のときからずっと見ていて、
家族の中で一番のファンです。

勝っても、負けても、泣けます。

負けないぞ！



がむしやらプロレスの観客は、試合を楽しむのがうまい。さまざまな団体に出場し、他の地域でも試合をする選手たちも「北九州のみなさんは、声を出したり笑ったり、全身で楽しんでもくれるのが伝わります。めちゃくちゃ熱い人が多い」と感じている。さらにプロレスという世界へのリスベクトも強い。「僕たちはふだんファンのみなさんと顔を合わせる機会も多いですが、リング上ではレスラー像をつくり上げて、非日常の世界を提供したいと思っています。ファンのみなさんも協力して、一緒に世界観をつくってくださっているのを感じます」とトウルエノ・ゲレロさん。ファンの声からも、彼らを愛する気持ちが伝わってくる。

北九州のお客さんは
熱すぎる!?

がむしやらプロレス
GAMSHARA PRO-WRESTLING

HP gam-pro.com

2026年の開幕戦は、2月1日(日)門司赤煉瓦プレイスにて!



山口フィナンシャルグループ事業成長室
三宅慶宏（みやけ・よしひろ）
経験者採用。他銀行→介護事業会社→現職。

地銀は企業に入り込み、 経営陣へ仮説を提案できる！

Q3

転職を経ていま、
銀行が地域にできることは
どんなことだと思っ？

銀行の仕事は「お金を貸すこと」だけではありません。取引先の社長の「議論の相手になること」も大きな役割です。特に人口減少や後継者不在の課題を抱える我々の地域では、社長が孤独な意思決定をしていると感じます。企業が抱える課題について、**「勉強強」した銀行員が、社長の議論相手として寄り添い、伴走することこそ、地方銀行ができることだ**と思います。

Q2

前職の業務内容は、
現職にどう活かしている？

金融機関から介護業界に転職しても、財務状況だけを見ているわけではありませんでした。特に介護業界には、強い理念や思いはあっても、人手不足やオペレーションが追いついていないという根深い課題がありました。収支がよくなるのは、その課題を改善した結果でしかありません。YMFGに転職しても、そのスタイルは変わりません。ただ対象が「積極的に依頼してくれた会社」から「銀行の取引先」になったことは大きな違いです。場合によっては「銀行員は現場を知らない」「うまくいかないと思う」と言われることもあり、信頼と協力を得るには時間がかかりました。しかしこれまで培った介護の知識や資格、運営改善の手法、そして現場での支援経験を活かすことで、お客さまからの信頼を得ることができています。



Q1

あなたはなぜYMFGに？

キャリアの始まりは別の金融機関でした。そこから全国1000拠点を持つ大手介護事業会社に転職し、約12年にわたって現場に入って課題を見つけ、収支や働き方の改善を進めてきました。その後YMFGに入社し、法人営業をはじめ、取引先の経営改善を現場に入り込んで支援しています。



第8回 あなたはなぜYMFGへ？ しなやかなジョブチェンジが もたらすもの

近年銀行では、金融の専門家だけでなく、多種多様なジャンルの経験者を採用しており、YMFGにも、異業種からの転職組が増えている。彼らの話からこれからの銀行が目指す姿が見えてくるのではないだろうか。

TEXT_ 浅野佳子 ILLUSTRATION_ 堀内えりか



もみじ銀行営業統括部
中村梨乃（なかむら・りの）
経験者採用。
他銀行→コンサルティング会社→現職。

Q1

あなたはなぜYMFGに？

キャリアの最初は、大阪にある銀行でした。個人営業の育成に携わった後、WEBマーケティング会社へ転職。食品のECサイトの支援を担当していました。結婚を機に広島へ移り住むことになり、これまでの専門性を活かしつつ、より地域に根ざして働きたいと感じて、もみじ銀行へやってきました。現在は商品企画やプロモーションを担当し、日々「どうやったら広島への生活者に寄り添った企画づくりができるか」を考えています。

Q2

前職の業務内容は、
現職にどう活かしている？

今は営業統括部で、商品企画やキャンペーン設計、プロモーションなどを担当しています。大きな変化は、商圏が全国→広島という一つの地域にぐっと絞られたこと。こ



Q3

転職を経ていま、
銀行が地域にできることは
どんなことだと思っ？

地方銀行は、「身近で信頼できる存在」であってほしい。だからこそ、プロモーションでは、単なる商品説明でなく、お客さまが自分ごととして受け取れるストーリーが必要だと思っています。その点で言えば、地方銀行はお客さまの声がすぐ返ってくる。反応を見て改善しながら、「一歩ずつ地域に合ったサービスに育てていく」ことができます。そのプロセスを楽しみたいと思います。

れはより地域を理解し、そこに住む人たちの心に刺さる企画が必要ということ。広島は郷土愛が深い地域です。カープ愛や祭りの文化、地元を誇りに思う気持ちなど、この土地のならではの雰囲気があります。外から来たからこそ気づける視点が、実際の企画や表現の細部に役立っています。

地銀のプロモーションには、 地域の深い理解が不可欠。

制約の多い銀行のマーケティング だからこそ、燃える！



山口フィナンシャルグループDX戦略部
新井悠介（あらい・ゆうすけ）
アルムナイ採用。
山口銀行→コンサル・リサーチ会社→現職。

Q3

転職を経ていま、
銀行が地域にできることは
どんなことだと思っ？

人材への積極的な投資やDXの進展など、内部には変革に向けた十分なリソースと熱意があります。加えて、銀行は地域の個人から企業、自治体まで、あらゆるプレイヤーと接点を持つ稀有な存在です。この「内部の専門性」と「外部との接点」を最大限に活かすことで、地域全体の課題解決や行動変容をリードできると思っています。

のための戦略立案に取り組んでいます。前職で培った、データに基づく仮説構築や媒体配分などの施策設計の考え方は今の仕事に直結しています。

Q2

前職の業務内容は、
現職にどう活かしている？

現在は各銀行と連携して、預金獲得のためのキャンペーン設計・ローンの収益拡大。コンサルティング会社での経験を経てYMFGに戻った理由は、大きく2つあります。1つは、「評論家ではなく実践者でありたい」という思いです。コンサルティングとして戦略を描くだけでなく、自らリスクを背負い、施策を完遂させて事業を成長させるプロセスに飢えていました。もう1つは、自分の経験が活かせるフィールドがあり、そこで「また一緒に挑戦しよう」と声を掛けてくださった方がいたことです。銀行という枠組みの中で、外で培ったマーケティングの知見をどう実装するか。古巣に戻るといっても、新たなミッションに挑むような感覚でした。

Q1

あなたはなぜYMFGに？





わたしを 変えた 住空間

理想の暮らしを求め、
三都へ移住した人々を訪ねました。



松田寛之さん
(40代・TRIP BASE COCONEEL)代表)

- 東京で15年、バンド活動とSEを経験。2019年に夫婦で山口県美祢市へUターン
- 祖父母が営んでいた秋吉台近くの定食屋を改装し、ゲストハウスをオープン
- 宿に加えて飲食の提供や原付バイクのレンタルも行う。11月に夫婦で取得していた1年の育休が明け、ランチ営業を再開

Instagram: @coconeel_mazda

代々受け継がれる景色

200年以上続く土地を継ぎ、本家を解体して新居を建てた。「この景色を先祖も見ていたと思うと感慨深い」

必要なものはDIYで

自宅横に10畳の倉庫を自作中。「機材を置いてレコーディングスタジオにする? など、妄想するのが楽しい」

仲間が自然と集う場所

ゲストハウスはカフェパブも兼ね、地元の友人も訪れる。「店の天井を張るのも友だちが手伝ってくれました」

売れてやると意気込んで、22歳で上京。バイトをしながら寝る間も惜しんでバンド活動に没頭した。30代でシステムエンジニアになったのは、結婚を機にちゃんとしようと思ったから。会社勤めもそれなりに楽しかったけど、夢を手放した自分に東京はもう必要なかった。

美祢に戻り、祖父母が40年以上前に畳んだ店の建物を使ってゲストハウスを始めた。DIYでつくり上げた空間は、東京時代によく行ったロンドンパブをイメージ。スピーカーやギター、レトロな雑貨をごちゃ混ぜにして、好きなものだけを詰め込んだ。

美祢には見どころがたくさんある。もっと街に交流を生み出そうと、仲間と宿泊協会を立ち上げ、地元企業とも積極的に連携している。日々感じるのは、バンドに打ち込んでいた頃に似た高揚感。夢を手放した自分が、この土地でまた夢中になれるものを見つけた。

For The Better

秋吉台は自宅からも近く、子どもが寝ない時はよくドライブへ。心地よい風景と車の揺れが合ったり、最高の寝かしつけスポットに。



山口県

友人の家に来たような安心感 〈お家カフェ ぽかぽか〉の Plate Lunch

山口市吉敷の赤田神社近くにある、手づくりパンが自慢のカフェ。少し山の方に入りますが、だいたいいつも満席です。築100年以上の古民家を改装した空間は、古すぎず新しすぎず、ちょうどいいバランス。静かな場所にある割に店内は賑やかで、友人の家に遊びに来たように気兼ねなくおしゃべりできます。ランチは地元食材を使ったお肉とお魚のプレートから選ぶことができ、店主が焼き上げるふんわり、もちりの天然酵母パンとグルテンフリーのデザート付き。味もボリュームも大満足です。このほっとする空気感とやさしい味に、みんな吸い寄せられてしまうのでしょうか。お店の前には細い橋があるので、車で来られる方はお気をつけて!

お肉プレート 2,300円(税込) ※ドリンク、デザート、パン2個付き
山口市吉敷赤田5-5-10 営: 11:00~17:00 休: 木、金

ワイエム証券 山口支店 吉村ゆり



オフィスワーカーのお腹を満たす 〈三陽食堂〉のアジフライ定食

こちらは長崎・松浦産のアジを使ったアジフライ専門店、赤坂門支店に配属されてすぐの頃、支店長が連れてきてくださいました。オフィス街という土地柄、店内はいつもスーツ姿のお客さんと賑わっています。周辺で働く人たちの胃袋を支えてくれていることを考えると、ありがたい存在ですね。実は、ここで食べたのが僕の“人生初アジフライ”。今まで食べてこなかったことを後悔するほどの美味しさで、衣はサクッ、身はフワッとしていて、火が通っていても鮮度のよさを感じました。さらにアジのたたきまで食べ放題で、1,000円切るといふコストも衝撃的です。また近々、仕事の合間に食べに行きたいと思っています。

アジフライ定食 930円(税込)
福岡市中央区長浜2-3-6 三陽長浜ビル1F
営: 11:00~14:00 休: 土、日、祝

北九州銀行 赤坂門支店 谷崎康太



福岡県

広島県



街のみんなにやさしいカフェ 〈スープとおにぎり クランク〉の SSスープセット

ゆっくりしたい休日に友人と訪れる、スープとおにぎりの専門店。就労継続支援B型事業所でもあり、赤ちゃん連れからお年寄りにまで配慮したバリアフリー設計が採用されています。グレージュを基調とした店内は、ミニマルながら温かみのある雰囲気。同じ敷地には駄菓子屋さんもあり、平日は学校帰りの子どもたちの溜まり場になっているそうです。私がよく頼むのは、スープが2種選べるセット。丁寧にとっただしでつくられるスープは、素材の味がしっかり活きています。釜だきの塩を使った塩おにぎり、もちもちの酵素玄米おにぎりも絶品。コーヒーも美味しいので、お庭の緑を眺めながらつい長居してしまいます。

SSスープセット 1,100円(税込)
福岡市鞍町鞍250 営: 10:00~L.O.16:00 休: 月、火、金

もみじ銀行 福山支店 坂川裕月



あしたのランチ何食べる?

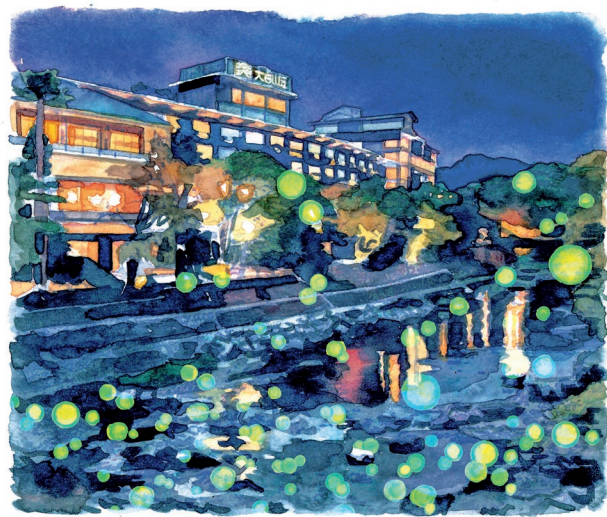
What will you have for lunch tomorrow?

YMFG社員がリアルに通うランチの名店をご紹介します。
今回は、地域の人々の“居場所”となっているお店に注目し、その居心地のよさの理由を探りました。

PHOTO_ 岩原俊一(山口)、小原実(広島)、北嶋幸作(福岡) TEXT_ 片桐絵都 EDIT_ 天季恵

ラブレター from

東京



「徳山の祖母がくれた『ただいま』と言える場所」

父が石油会社に勤めていたため、幼少期をアラブ首長国連邦のアブダビで過ごしました。それから日本に戻っても各地を転々と。故郷と呼べるものがない私にとって、唯一「ただいま」と言える場所が山口です。

母方の祖母は徳山（現周南市）に嫁いだ後、若くして祖父を亡くしました。当時の常識であれば嫁ぎ先にとどまるのでしょうが、祖母は戸籍を抜けて洋裁学校に通い、自分の店を立ち上げます。毎年夏に徳山へ帰省すると、作業場ではお針子さんたちがせっせと針を動かし、祖母も忙しそうに立ち働いていました。そんな中でも、必ず用意してくれていたのが素麺。瀬戸内産の干しエビが浮かんだつゆの味は、今でも忘れられません。気丈で口数が少なく、新幹線のホームで私たちを見送る時も、寂しさなんて微塵も見せない。最期は「潮干狩りに行くから起こさないでね」と言い残し、看病のために東京から向かっていた母の到着を待たずに旅立ちました。あの祖母のことで

すから、煩わせなくなかったのでしょう。

さまざまなご縁があり、今では長門湯本温泉の街づくりに携わっています。出張にかこつけて、祖母が愛した〈大谷山荘〉に家族で泊まることもしばしば。初夏には辺り一面にホテルが舞い、えも言われぬ幻想的な光景が広がります。5つの窯元が集まる「萩焼深川窯」や、萩焼の器でケーキを出してくれる〈cafe&pottery音〉、千畳敷の〈カントリーキッチン〉や瓦そばの〈柳屋〉もお気に入り。一度訪れれば長門湯本のファンになるはずです。

ずっと祖母のようにになりたいと思って生きてきました。新しいことに挑戦するのが好きなのは、イノベティブな彼女の血を受け継いでいるからかもしれません。長門湯本は賑わいが増し、徳山の駅周辺も再開発が進んでいます。街並みは変われど、そこには確かに祖母の美しい生き方が刻まれている。大切な記憶と現在地が交差する場所、それが山口です。

from 東京

林千晶さん



早稲田大学商学部、ボストン大学大学院卒。東京在住。花王を経てロフトワークを起業、代表・会長を務める。2022年に退任後、株式会社QOを設立。北海道や秋田などの地域を拠点に、時代を代表するような「継承される地域」の創造を目指す。主な経歴にグッドデザイン賞審査委員、経済産業省 産業構造審議会など。森林再生を目指す、株式会社飛驒の森でクマは踊る（通称：ヒダクマ）取締役会長も務める。

Instagram : @chiaki_0808

KITAKYUSHU
《茶房 安手無》

Take Out Tea 大地のジャスミン茶
《茶房 安手無》
福岡県北九州市小倉北区京町3-10-9 栄伸ビル4F

YAMAGUCHI
《和漢茶舗いくもや》

くすり屋さんの八宝茶（ローズ）
SUO-KOKUBUNJI 黒豆ブレンド茶
《和漢茶舗いくもや》
山口県防府市戎町1-6-11

HIROSHIMA
《瀬戸内クラフトレモネード》

もみじ檸檬茶 | おしゃれなどうぶつレモネード
《瀬戸内クラフトレモネード》
広島県廿日市市宮島口 1-6-7

三都の雑貨物語



くすり屋さんの八宝茶（ローズ）
《和漢茶舗いくもや》

熱いお茶を何煎も飲むと、頭はすっきりしているのに、体には心地よい浮遊感が……。これは「茶酔」と呼ばれ、ミネラルやカフェイン、温熱効果によって酔ったような感覚になるのだとか。茶酔とまではいかなくても、ふとした時間に味わうお茶は、日常をほんの少し特別にしてくれそうですよね。今回は、三都で出会えるとおきのお茶をご紹介します。防府市にある〈和漢茶舗いくもや〉は、漢方薬局が手がける薬膳茶ブランド。バラのつぼみやドライフルーツをブレンドした八宝茶はすっきりとした甘さで、防府市の史跡・周防国分寺とコラボした黒豆茶は、オリエンタルな風味がクセになります。世界遺産の玄関宮島口発の〈瀬戸内クラフトレモネード〉は、味もさることながらコンセプトが秀逸です。厳島神社の美しい朱色をイメージしたほうじ茶風味のレモネードや、宮島の鹿がモチーフのパッケージなど、薫り立つご当地感にほっこり。小倉駅近くの〈茶房安手無〉では、昼は中国・台湾茶の茶房、夜はお酒を提供しています。テイクアウト用のマグボトルには茶葉が入っていて、お湯や水で足せる仕組み。外出先でも芳醇な味わいが愉しめます。「茶柱が立つと縁起がいい」と言いますが、立ったことを人に話すと運が逃げてしまうそう。それってなんだか寂しいかも。どうせなら酔っ払うくらいの華やかな余白を持って、気の置けない仲間とお茶を囲みたいですね。

N° 08

ふわり、ひらく
華やぎの衣服

Shimonoseki Add-venture Summit 2025 Report

あしたを切り開く冒険家が集結！ 地方で挑戦するって実際どう？

2025年7月30日、下関市の海峡メッセ下関で3度目となる「SAS」が開催された。今回はスタートアップと連携実績のある地域企業、三都で事業承継をした方々を迎えトークセッションを実施。計2時間にわたるトークから、街の変化を牽引してきた強者たちの本音を紹介する。

SAS

SHIMONOSEKI
ADD-VENTURE
SUMMIT

YMFGが主催する、地域とスタートアップをつなぎイノベーションを創出することを目指したサミット。会場では、スタートアップピッチ、地域内外の有識者によるトークセッション、地域企業とピッチ参加者の交流などが行われる。



林田 茉優
株式会社
吉開のかまぼこ
代表取締役

Q－後継者不足にどう向き合う？

惚れ込んだ老舗企業の後継問題を支援していたら、自分が社長になっていました(笑)。後継者不足は確かに問題ですが「社長になれるチャンスが増えている」とも捉えられます。素人社長だという弱みも、見方を変えればお客さまに近い存在だといえる。だからこそ気づける魅力や課題を言語化し、新たな価値につなげています。

Q－事業承継で変えること変えないこと、どう見極めた？

今年4月に祖父・父と続く会社の3代目を引き継ぎました。つくれば売れる時代から、つくっても余る時代へと変わる中で、先代との考え方の違いに悩むことも。そこで私は、当時と今では何が変わったのかを細かく父から聞きました。そして100年企業を目指すならば、何を変え何を守るべきか、先代と徹底して対話し方針を決めました。

松山 功

株式会社ひびき精機
代表取締役

赤塚 亮太
株式会社アラト
代表取締役

Q－事業継承が地域にもたらすものとは？

YMFGキャピタルから「YMFG Searchファンド」を紹介いただき、福岡で60年以上続く運送会社を事業承継しました。力を持て余していた自分のような人間が経営者になれるのは、まさに経営の民主化。事業を引き継いで4年半。今改めて思うのは、長く続く企業が存続することは、その地域にとって一つの希望になるということです。

Q－なぜスタートアップに投資をするのか？

1956年から山口県田布施町で造船関連の事業を展開する我々は、数年前からeスポーツ系のスタートアップに投資をしています。以前デジタルツイン系のスタートアップと共同事業を起こした際に興味を持ちました。スタートアップへの投資は、新しい分野を学ぶ機会になり、結果、自社事業の可能性が広がると考えています。

木村 晃一

大晃ホールディングス
株式会社
代表取締役

隅田 典代
社会福祉法人
むべの里光栄 理事長

Q－スタートアップとの連携、抵抗はなかった？

2021年に宇部内で大規模な法人合併を行った際、スタートアップに協力いただきました。私は新しい技術に対して「いいじゃん」と素直に思う性分。やったことのないことは、やってみないとわからないですから。100球投げたら1球くらい当たる。当たったら最後までやり切る。そうして成功体験を積み重ねていけば仲間も増えていくはずです。

Q－スタートアップは地域企業に何をもたらす？

私たちはまだまだ中堅の航空会社。人材的にも財務的にも余裕がない中で、独自性の追求に取り組まないといけません。スタートアップは柔軟でスピーディーにソリューションを提供してくれる存在ですし、ニーズやノウハウを共有しながら共同開発もできる。彼らにとっては実証の場になりますし、互いにメリットのある関係だと感じています。

後藤 洋

株式会社
スーフライヤー
執行役員

YMfg VOL.13

2026年1月発行

発行：山口フィナンシャルグループ
お問い合わせ窓口：総合企画部
広報・IR室：沖永・稲本
住所：山口県下関市竹崎町4-2・36
電話：083-223-5545

企画・制作：

ECD_TUGBOAT 企画－伊藤総研
編集－山崎若菜・吉川月華 (itskn)、後藤麻与
プロデューサー－天本孝恵 (itskn)
エディトリアルデザイン－村田 鎌 (BROWN.DESIGN)
印刷－サンエムカラー

Instagram もチェック！



@ymfg-official



@yamaguchibank-official



@momijibank-official



@kitakyushubank-official

マガジンの裏話から、暮らしに役立つ情報まで。
街のあしたを照らす最新トピックスを配信中！

山口銀行の初代本店で、街のあしたを語らおう

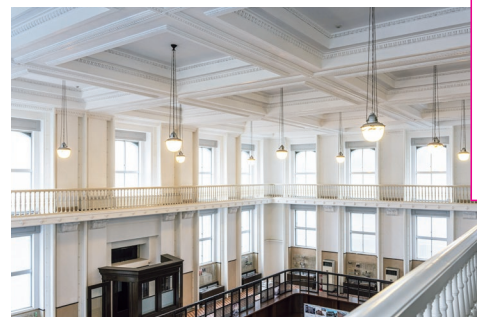
〈やまぎん史料館〉が紡ぐ、銀行と街の歩み。あなたは どう読む？

銀行は今、カフェやギャラリーなど街に開かれた存在へと姿を変えている。〈やまぎん史料館〉は、その変化をいち早く体現した場所の一つだ。始まりは1920年。旧山陽道沿いが西日本屈指の金融街として栄えていた頃、三井銀行下関支店として建てられ、1944年から1965年まで山口銀行の初代本店として地域経済の中樞を

担った。移転後、行内の会議に使われていた建物は、山口銀行創業130周年を機に、地域にひらかれた史料館へ生まれ変わった。山口県指定有形文化財に指定され、その構造や意匠には、当時の地銀の姿勢や情熱が今もなお息づく。銀行は街のためにどうあるべきか。その手がかりを探しに、始まりの地を訪ねてみてはどうだろうか。

重厚感のある
石造りの外観

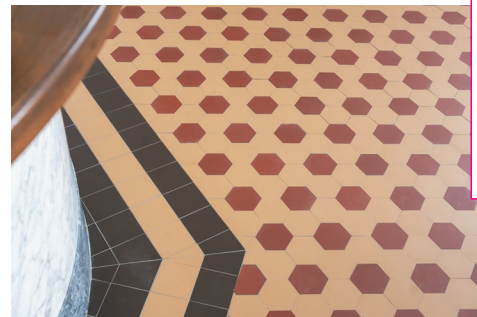
設計は日銀本店など多くの銀行建築を手がけた長野宇平治。御影石による外観には細部にまで彫刻が施され威厳と風格が漂う。

回廊から
見渡せる営業室

柱のない開放的な営業室は、2階に回廊が巡り空間全体を見渡せる。左右対称さと相まって訪れる者に安心感を与える。

上へ伸びる
木製のらせん階段

2階へと続くらせん階段は、横から見ると上昇していくような美しい曲線を描き、館内の象徴的なディテールに。

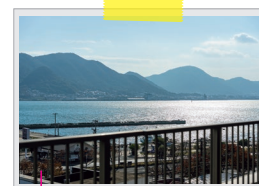
モダンさを添える
亀甲タイル

マットな亀甲タイルが、西洋的な建築に東洋的要素を加え、空間にモダンな印象を生み出している。



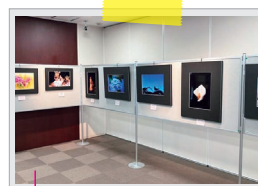
あの頃へタイムスリップ

2階は山口銀行の歩みがわかる年表やグッズなど各時代の貴重な史料資料がずらりと並び、歴史を興味深く辿ることができる。



海峡を眺める

屋上は関門海峡を挟み北九州まで一望できる休憩スペース。開放感のある空間は、訪れた人を晴れやかな気持ちにしてくれる。



作品を持ち寄り語り合う

市民の交流を促すことを目的に、街の方々へ作品展示の場を提供。4～6月は「プレスフラワー展」「写真展」「書道展」を開催予定。

かしこまらずに
どうぞ「やまぎん史料館」
楽しみ方いろいろ

INFORMATION

住所：山口県下関市観音崎町10-6
休：月・火・祝
電話：083-232-0800



藍に染め、
藍に座す。



広島県福山市の山野町で育てられた
藍の葉を使った天然の藍染め仕上げ
LISCIO の「Stool 藍染」

特徴 『藍屋テロワール』の“天然灰汁発酵建て”の藍
2025年の大阪・関西万博に公式出展
材質 ホワイトアッシュ
価格 ¥58,000(税込)